

親鸞さまの

【本文】

むしるてん 無始流転の苦をすてて

むじょうねはん 無 上涅槃を期すること

によらいにしゅ 如来二種の回向の

おんどく 恩徳まことに謝しがたし

【意記】

生と死を繰り返して、迷い苦しみを続けてきたのは、その始まりがいつだったのかさうかわからない程です。その迷いと苦しみの連続が断ち切られて、

極楽浄土に往き成仏する未来を期することが出来るようになりました。

それは、**まて**阿弥陀様のお陰です。そのお陰に二つあり、一つは極楽に往くこと。もう一つは、極楽から現世に還つて阿弥陀様のお手伝いをする事です。

このお恵みとご恩は感謝してもしきれぬほどです。

【私の味わい】

最近 若者に人気の漫画アニメのジャンルとして「転生もの」というものがあるそうです。その名の通り、輪廻「転生」をテーマにしており、現代の人が異世界に生まれ変わったり、過去や未来に往くというのを題材にしているようです。これがインターネットの人生相談でも反映されて、関連した質問を時々受けます。

いわく「失敗したこの世の人生を終わりにしたい、自らその決断をして転生すれば次にはちと良い人生が待っていると思う。そうなんですよね、お坊さん、簡単に言えばそういう趣旨です。

これについて、私は次のように回答します。そもそも、輪廻「転生」は歓迎すべきことではありません。それは、生前に成仏する道筋が定まらなかつた結果、何らかの命になつて人生、人間とは限りませんが、を再トライするという残念な結果なのです。だからこそ、ちかく人間に生まれたのだから今生で仏様の教えに出遇わせてもらいなさいよ、これを逃したら次のご縁は一体いつのことになるでしょう。そう考えてください、と回答します。しかしながら、色好み返事が返ってくることはほぼ皆無です。

「易往爾無」人、極楽の道筋は**まて**の人に開かれ往くことは誠に容易。しかし、実際に往生する人は稀である、というお経の説です。自力で自己の価値観から出る

ことは難しく、仏様の教えに出遇うことは元々困難なことです。しかし、私達は今、お念仏をとなえ、極楽往きを期するようになった。「転生」を脱したお陰です。（悠本